

議 員 篠 原 峰 子

- 1 現在、本市の高校生のおよそ半数が市外の高等学校へ通っており、住んでいる地域によってかなりの交通費の負担が家計に重くのしかかっていることから、遠距離通学の高校生に対する通学費の負担軽減策について、本市の考えを伺う。

(回答)

高校生を対象とした通学費支援につきましては、現在、市としての具体的な支援策はございませんが、昨年度から、市内の交通事業者がバス利用の促進と利便性向上の観点から、市内のバス路線が乗り降り自由となる通学定期券「いとうスクールパス」を発売しており、高校生につきましても、以前に比べると利便性や経済性が向上しているものと認識しております。

市内中学生の高校の進学先につきましては、議員ご指摘のとおり、およそ半数の生徒が市外となっており、現状では、具体的な試算まではしておりませんが、相当な通学費をご負担されているものと思われます。

今後につきましては、市内高校の統廃合の進展や交通事業者の商品開発等、高校生の通学に係る状況を総合的に勘案しながら、本市独自の支援の可能性について、引き続き検討してまいります。

- 2 来年度に次期計画を策定する予定の「第5期伊東市障がい福祉計画」及び「第1期伊東市障がい児福祉計画」に関して、以下2点伺う。

- (1) 計画の成果目標として、施設入所から地域生活へ移行する人数を掲げているが、現時点における達成状況及び課題を伺うとともに、新たな計画策定に当たり、どのように目標を設定し、取り組んでいくのか伺う。

(回答)

第5期伊東市障がい福祉計画における成果目標の一つとして、現在施設入所している障がい者が、障害福祉サービスを利用しながら地域で生活ができるようにしていく「地域生活への移行」があり、国の指針に基づき、施設入所者数は、令和2年度末時点にお

いて平成28年度末と比較し、4人減の92人とし、3年間に延べ23人が地域生活に移行できることを目標としております。

本年11月時点における見込では、令和2年度末の施設入所者は89人、これまでの期間で地域生活に移行した人数は延べ20人であり、概ね計画どおりの達成状況となっております。

また、次期計画である第6期障がい福祉計画におきましても、入所者一人一人の身体等の状況を確認するとともに、入所者本人及びご家族の意向も踏まえた上で、地域移行の数値目標を立て、地域生活への移行を支援してまいりたいと考えております。

(2) 新設事業についての現在の取組状況及び今後の計画について伺う。

(回答)

第5期障がい福祉計画及び第1期障がい児福祉計画における新たな障害福祉サービスは、一般事業所へ就労した障がい者の生活を支援する「就労定着支援」、施設入所していた障がい者が地域生活をはじめたときに一定期間の生活支援を行う「自立生活援助」、通所サービスの利用が困難な重度の障がい児に対し自宅で生活機能訓練等を行う「居宅訪問型児童発達支援」の3事業であり、本年3月末現在における利用人数は、就労定着支援は1人、自立生活援助及び居宅訪問型児童発達支援については利用がありませんでした。

第6期障がい福祉計画及び第2期障がい児福祉計画の策定にあたりましても、国の基本指針に基づき、利用者のニーズを把握し、サービス見込量に応じたサービス提供量の確保に努め、障害福祉サービスの提供体制のさらなる充実を図ってまいります。

3 本年6月に施行された改正バリアフリー法では、今後5年間の目標として、ハード・ソフト両面でのバリアフリー化をより一層推進していくとしていることを踏まえ、以下2点伺う。

(1) 今後、充実させていくべきと考える次の事業について、現在の取組状況及び今後の方向性について伺う。

ア 重度心身障害者タクシー利用料金助成事業について

(回答)

重度心身障害者タクシー利用料金助成事業につきましては、重度心身障害者の社会参加を促進し、障害者福祉の向上を図ることを目的として、タクシー利用料金の一部を助成するものであり、身体障害者手帳1級、2級、療育手帳A、精神障害者保健福祉手帳1級、2級のいずれかを所持する在宅の重度障害者の方に対し、1枚610円のタクシー利用券を、15枚綴りにして交付しております。

昨年度は、交付対象である重度心身障害者1,894人のうち、約6割の1,101人の方から申請があり、窓口においては、多くの皆さんからいつも助かっているとの声をいただいております。

しかしながら、利用者の方からは、タクシー券の枚数をもう少し増やして欲しいとのご要望もいただいておりますので、タクシー協会のご意見も伺いながら、今後、枚数の増について検討してまいります。

イ ユニバーサルデザインタクシー導入促進補助事業について

(回答)

ユニバーサルデザインタクシー導入促進補助事業につきましては、地域公共交通の確保、維持、改善を図るために策定した伊東市地域公共交通網形成計画の取組の一つで、市内のタクシー事業者が、ユニバーサルデザインタクシー車両を購入する際に、国、県と協調して購入費用の一部を補助する制度であります。

現在の取組状況につきましては、今年度、補助制度を創設し、タクシー事業者に対して積極的に活用していただけるよう年度当初に周知を行い、1社から1台購入する補助申請がなされたところであります。

今後の方向性につきましては、静岡県 of タクシー車両に対するユニバーサルデザインタクシー車両の割合は、令和2年10月末現在、10.6%であります。市内のタクシー車両150台に対するユニバーサルデザインタクシー車両は5台であり、その割合は3.3%と非常に低い状況にありますことから、再度、タクシー事業者に対して補助制度を

積極的に活用していただけるよう周知し、導入促進に努めてまいります。

ウ 公立小・中学校における障がい者対応型トイレやスロープ、エレベーターの設置について

(回答)

障がい者対応型トイレにつきましては、増築・改築に併せ、一部の屋内運動場や校舎には設置しておりますが、多くの学校では設置されていないため、必要となった際に個別に対応してまいりたいと考えております。

スロープにつきましては、玄関や体育館入口へのスロープの設置や屋内・屋外階段への手すりの設置など、児童生徒の身体の状態に合わせ、学校入学時に個別に対応しております。

エレベーターにつきましては、増築・改築時に一部の屋内運動場には設置しておりますが、校舎への設置は行われておりません。

なお、エレベーターの設置には大規模修繕を行う必要があるため、現状では、設置は困難となっております。

過去には、エレベーターではありませんが、階段を利用する際の移動式昇降機を導入し、移動が円滑に行えるよう対応したことがございます。

今後の方向性としてしましては、児童生徒一人一人の身体的状態を踏まえ、安全・安心に学校生活を送れるよう個別に対応していくとともに、学校施設の新築・増築や改築を行う際には、学校施設を利用される多くの方にとって使いやすい施設となるよう、バリアフリー基準に適合した改修を行ってまいります。

(2) 「心のバリアフリー」に関し、国が教育・啓発を推進しているが、学校教育と社会福祉の観点から、障がい者（児）への理解の促進に向けた本市の取組について伺う。

(回答)

「心のバリアフリー」に関する学校教育の観点につきましては、学習指導要領改訂により、各教科や特別活動等で、障がいのある人への理解を深める教育の充実が図られております。

本市では、特別支援学校の交流籍を活用した交流学习や共同学習を通じて、障がいのある人への理解を推進する取組や、オリンピック・パラリンピック教育の一環として、障がい者スポーツの体験学習や障がい者アスリートとの交流などに取組むとともに、地域住民との交流として、行事交流、ゲストティーチャーの招聘、施設訪問、介護体験など、社会福祉施設との交流活動を行っております。

今後も、このような教育活動を通して、多様性を尊重する共生社会の実現を目指してまいります。

また、社会福祉の観点からは、心のバリアフリーを推進するためには、障がいのある方への偏見や誤解を取り除き、障がいのある人もない人も、同じ市民の一員として、共に生活できる地域社会をつくり上げていくことが大変重要であると考えます。

そのための取組として、障がい者週間における啓発活動や、ふれあい広場、障がい者スポーツ大会、障がい者文化作品展示会の開催、市と障がい者就労支援事業所との合同プロジェクトである「ここからマーケット」を通じた授産品の販売などにより、障がい者と市民との交流を図り、障がい者に対する理解の普及啓発、交流機会の創出に努めてまいります。

- 4 静岡県では、地域防災力の向上を図るため若者世代への防災啓発として、小・中・高校生を対象に「ふじのくにジュニア防災士」を養成しており、令和2年度から県内全中学校で養成講座を実施していることから、本市における取組状況を伺うとともに、児童・生徒への防災教育をどのように位置づけているか伺う。

(回答)

「ふじのくにジュニア防災士」養成についての本市の取組状況につきましては、本年6月に静岡県教育委員会からの依頼を受け、市内中学校に対し、防災教育の一環として「ふじのくにジュニア防災士養成講座」の活用を検討するように周知しております。

今年度は、宇佐美中学校の２年生がこの講座を活用し、語り部動画の視聴や防災講話を受講する予定であります。

将来にわたり、地域防災力の維持・向上を図るためには、次代の担い手となる子供たちへの防災教育は重要であると認識しておりますが、学校教育においては、体系化が十分なされていないのが現状であり、身に付けるべき防災知識は何か、どのような内容を発達段階に応じてどのように学ばせるかを体系的に整えていくことが必要であると考えております。